

Enterprise Vault™ バックアップと回復

12.3

Enterprise Vault™: バックアップとリカバリ

最終更新日: 2018-02-08。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、Veritas がオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	本書について	6
	バックアップと回復について	6
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先	6
	Enterprise Vault トレーニングモジュール	8
第 2 章	Enterprise Vault のバックアップ	9
	Enterprise Vault バックアップについて	9
	Enterprise Vault バックアップモードについて	10
	Enterprise Vault データのバックアップ	11
	Enterprise Vault システムデータベースのバックアップ	12
	フィンガープリントデータベースのバックアップ	12
	ボルトストアパーティションとボルトストアデータベースのバックアップ	13
	インデックスの場所のバックアップ	13
	分類ポリシーフォルダのバックアップ	14
	バックアップモード cmdlet について	14
	インデックスの場所のバックアップモードに関する cmdlet の構文	16
	ボルトストアのバックアップモードに関する cmdlet の構文	17
	環境に合わせた PowerShell バックアップコマンドの生成	18
	バックアップスクリプトでの PowerShell cmdlet の使用	19
第 3 章	Enterprise Vault 回復手順	21
	回復手順の一部としての EVSVR の使用について	21
	システム全体のバックアップを使った Enterprise Vault の回復	22
	環境回復手順の実行	22
	データのみバックアップを使った Enterprise Vault の回復	23
	回復手順 1: サーバーへのソフトウェアのインストール	24
	回復手順 2: Enterprise Vault システムデータベースの復元	24
	回復手順 3: サーバーの名前を変更すること	25
	回復手順 4: Enterprise Vault データファイルのコピーまたは移動	27
	回復手順 5: ディレクトリデータベースエントリの消去	27
	回復手順 6: 最初のディレクトリサービスコンピュータでのサービスとタスクの再作成	28

回復手順 7: Enterprise Vault サーバーでのサービスとタスクの再作成 30

回復手順 8 : Web Access アプリケーション設定のチェック 31

回復手順 9: レジストリエントリのチェック 32

Enterprise Vault コンポーネントの回復 32

VCS クラスタでの Enterprise Vault の回復 34

 リカバリシナリオ 1: いずれかのクラスタノードの再構築が必要な場合
 34

 リカバリシナリオ 2: すべてのクラスタノードの再構築が必要な場合
 35

Windows Server フェールオーバークラスタでの Enterprise Vault の回復 36

 リカバリシナリオ 1: いずれかのクラスタノードの再構築が必要な場合
 36

 リカバリシナリオ 2: すべてのクラスタノードの再構築が必要な場合
 37

本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [バックアップと回復について](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

バックアップと回復について

このガイドでは、Enterprise Vault をバックアップするために必要な情報と障害の発生時に Enterprise Vault 環境を回復するための手順を紹介します。

Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

[表 1-1](#) に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。■ 管理コンソールの [ヘルプ] メニューで [Enterprise Vault のヘルプ] をクリックします。

マニュアル	コメント
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。

マニュアル	コメント
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

Enterprise Vault のバックアップ

この章では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault バックアップについて
- Enterprise Vault バックアップモードについて
- Enterprise Vault データのバックアップ
- バックアップモード cmdlet について
- 環境に合わせた PowerShell バックアップコマンドの生成
- バックアップスクリプトでの PowerShell cmdlet の使用

Enterprise Vault バックアップについて

システム障害が発生した場合にデータ損失を防止し、回復の手段を提供するため、Enterprise Vault で効果的なバックアップ戦略を検討することが必要です。この戦略を計画するときには、複数のシステム間に Enterprise Vault のコンポーネントを分散できる点を考慮してください。Enterprise Vault が依存するリソースは、Enterprise Vault のサービスやタスクからリモートの位置に配置される場合があります。

このセクションでは、次の内容について説明します。

- バックアップの実行中に、インデックスの場所とボルトストアをバックアップモードにできる、Enterprise Vault のバックアップモード。
- バックアップする必要があるデータベース。
- バックアップする必要があるデータの場所とインデックスの場所。
- バックアップスクリプトでの Enterprise Vault のバックアップモード PowerShell cmdlet の使用。

Enterprise Vault のバックアップに関する追加情報は、Veritas サポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100006827>

Enterprise Vault バックアップモードについて

Enterprise Vault を使うと、データバックアップの期間中、インデックスの場所とボルトストアをバックアップモードに設定できます。インデックスの場所またはボルトストアパーティションがバックアップモードである間、Enterprise Vault はこれらの場所にはデータを書き込みません。ただし、インデックスの場所とボルトストアがバックアップモードであっても、ユーザーに対するサービスは維持されます。たとえば、ユーザーは引き続き自分のアーカイブを検索し、それらからアイテムを復元することができます。

インデックスの場所とボルトストアのバックアップモードは、Enterprise Vault 管理コンソールで設定できます。バックアップが完了したら、バックアップモードをクリアするために管理コンソールを使うことができます。

Enterprise Vault 管理シェルで PowerShell の cmdlet を使って、インデックスの場所とボルトストアのバックアップモードの設定、クリア、レポート取得を実行することもできます。バックアップモードを設定、クリアするために PowerShell の cmdlet を使う場合、並行バックアップスクリプトの使用をサポートするために Enterprise Vault は各ボルトストアとインデックスの場所の要求数のカウントを管理します。

p.14 の「バックアップモード cmdlet について」を参照してください。

ボルトストアのバックアップモードを管理するには、ユーザーアカウントにストレージ管理者役割を割り当てる必要があります。インデックスの場所のバックアップモードを管理するには、ユーザーアカウントにメイン管理者役割を割り当てる必要があります。

詳しくは『管理者ガイド』のロールベースの管理に関する説明を参照してください。

管理コンソールでは、次の場所でボルトストアのバックアップモードを設定、クリアできます。

- Enterprise Vault サイトのコンテキストメニュー
- ボルトストアグループのコンテキストメニュー
- ボルトストアのコンテキストメニュー

次の場所でインデックスの場所のバックアップモードを設定、クリアできます。

- Enterprise Vault サイトのコンテキストメニュー
- Enterprise Vault サーバーのコンテキストメニュー
- インデックスサービスのプロパティのページ

インデックスの場所とボルトストアでバックアップモードの設定と設定解除を行う場合、イベントは Enterprise Vault イベントログに書き込まれます。インデックスの場所がバック

アップモードである場合、インデックスサービスはイベントの開始時にもイベントを書き込みます。このイベントは、バックアップモードにあるすべてのインデックスの場所を示します。

次の例に、管理コンソールでのバックアップモードの使い方を示します。最初の例は、ボルトストアグループのすべてのボルトストアにバックアップモードを設定する手順です。2 番目の例は、EVServer.domain1.local というサーバーにあるインデックスの場所の現在のバックアップモード設定を確認する手順です。

ボルトストアグループのすべてのボルトストアにバックアップモードを設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの[ボルトストアグループ]コンテナを展開します。
- 2 バックアップモードに設定するボルトストアが含まれるボルトストアグループを右クリックし、[状態を設定]、[すべてのボルトストアにバックアップモードを設定]の順にクリックします。

右ペインの[バックアップモード]列に、ボルトストアグループのすべてのボルトストアにバックアップモードが設定されたことが表示されます。

インデックスの場所の現在のバックアップモード設定を確認する方法とその設定を変更する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[Enterprise Vault サーバー]、[EVServer.domain1.local]、[サービス]の順に参照します。
- 2 右ペインで[Enterprise Vault インデックスサービス]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 3 [インデックスの場所]タブをクリックします。
- 4 [バックアップモード]列に、サーバー上のすべてのインデックスの場所の現在のバックアップモード設定が表示されます。これらのいずれの場所の設定も変更できます。

Enterprise Vault データのバックアップ

次の Enterprise Vault データとデータベースをバックアップする必要があります。

- 「Enterprise Vault システムデータベースのバックアップ」
- 「フィンガープリントデータベースのバックアップ」
- 「ボルトストアパーティションとボルトストアデータベースのバックアップ」
- 「インデックスの場所のバックアップ」
- 「分類ポリシーフォルダのバックアップ」

Enterprise Vault システムデータベースのバックアップ

Enterprise Vault システムの完全バックアップを行うには、次のシステムデータベースをバックアップします。

- EnterpriseVaultDirectory。このデータベースは、1 つ以上のボルトストアデータベースをバックアップした直後にバックアップする必要があります。
p.13 の「[ボルトストアパーティションとボルトストアデータベースのバックアップ](#)」を参照してください。
- EnterpriseVaultMonitoring
- EnterpriseVaultAudit (Enterprise Vault 監査を有効にしている場合)。
- 設定した各 FSA Reporting データベース (FSA Reporting を使う場合)。

他社の SQL バックアップツールを使わない場合に、Enterprise Vault SQL データベースをバックアップするのに実行できる手順については、Veritas サポート Web サイトにある次の文書を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100022023>

メモ: すべての Enterprise Vault サーバーは、完全なシステムとファイルのバックアップも持つ必要があります。すべての Enterprise Vault サービスは情報をレジストリに格納するため、このバックアップにはレジストリを含める必要があります。Enterprise Vault システムデータベースのバックアップと同時に、このシステムとファイルをバックアップすることを検討してください。

フィンガープリントデータベースのバックアップ

各ボルトストアグループには、通常 Enterprise Vault 単一インスタンスストレージを可能にするデータを保持するフィンガープリントデータベースがあります。

各フィンガープリントデータベースは EVVSG_vaultstoregroup_n_m という名前で、**vaultstoregroup** はスペースが削除されたボルトストアグループの名前、**n** および **m** は内部で生成される整数です。

対応するボルトストアグループでバックアップモードを設定したり、フィンガープリントデータベースのバックアップと同時にすべてのボルトストアのバックアップを行う必要もあります。

p.10 の「[Enterprise Vault バックアップモードについて](#)」を参照してください。

他社の SQL バックアップツールを使わない場合に、Enterprise Vault SQL データベースをバックアップするのに実行できる手順については、Veritas サポート Web サイトにある次の文書を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100022023>

ボルトストアパーティションとボルトストアデータベースのバックアップ

各ボルトストアには、`EVvaultstore_n` という名前のデータベースがあります。ここで、**`vaultstore`** は、スペースを削除したボルトストアの名前で、**`n`** は内部で生成される整数です。

ボルトストアパーティションのバックアップと同時にボルトストアデータベースをバックアップします。

メモ: ボルトストアデータベースまたはボルトストアデータベースのグループをバックアップした後、すぐにディレクトリデータベース (EnterpriseVaultDirectory) をバックアップします。

ボルトストアデータベースとボルトストアパーティションをバックアップする前に、ボルトストアをバックアップモードにします。

p.10 の「[Enterprise Vault バックアップモードについて](#)」を参照してください。

バックアップ後の Enterprise Vault のセーフコピーの削除

Enterprise Vault は、ボルトストアパーティションがバックアップされていることを検出すると、以前にアーカイブしたアイテムのセーフコピーを自由に削除できます。Enterprise Vault は、バックアップソフトウェアによってバックアップ後にアーカイブ属性がクリアされる場合に、個々のファイルのアーカイブ属性を調べることによって、パーティションがバックアップされていることを検出できます。または、トリガファイルのしくみを使うことができます。

バックアップソフトウェアとパーティションバックアップの検出の関係について詳しくは『Veritas Enterprise Vault インストール/設定』の Enterprise Vault のセーフコピーに関する説明を参照してください。

インデックスの場所のバックアップ

それぞれの Enterprise Vault インデックスサービスは複数の場所にインデックスを格納できるため、これらすべての場所をバックアップする必要があります。各 Enterprise Vault サーバーで、インデックスの場所は、[Enterprise Vault インデックスサービス]プロパティページの[インデックスの場所]タブに一覧表示されます。

次の手順は、`EVServer.domain1.local` というサーバーでのバックアップに必要なインデックスの場所を確認する方法を示しています。

メモ: バックアップするすべてのインデックスの場所の完全な一覧を確認するには、インデックスサービスを実行しているすべての Enterprise Vault サーバーでこの手順を完了する必要があります。

バックアップする必要があるインデックスの場所の完全な一覧を確認する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[Enterprise Vault サーバー]、[EVServer.domain1.local]、[サービス]の順に参照します。
- 2 右ペインで[Enterprise Vault インデックスサービス]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 3 [インデックスの場所]タブをクリックし、バックアップする必要があるインデックスの場所を書き留めます。

インデックスの場所をバックアップする前に、インデックスの場所をバックアップモードにする必要があります。

p.10 の「[Enterprise Vault バックアップモードについて](#)」を参照してください。

メモ: Enterprise Vault 10.0 以降の場合、インデックスの場所にバックアップモードを設定する前に、環境内のすべてのインデックスサービスが実行されていることを確認します。

インデックスの場所がバックアップモードである場合、ユーザーはアーカイブの検索を続行できます。バックアップ時間帯にこの機能を維持する必要がある環境では、バックアップの実行中のすべてのインデックスサービスを停止することができます。サービスを停止する場合、インデックスの場所にバックアップモードを設定する必要はありません。

分類ポリシーフォルダのバックアップ

Enterprise Vault 12.2 以降の分類機能では、共有ネットワークドライブ上のフォルダにそのポリシーファイルが保存されます。Initialize-EVClassificationVIC cmdlet を実行してこの機能を設定するときに、このフォルダのパスを指定します。フォルダには、定義した新しい分類ポリシーと、組み込みポリシーに加えた変更 (ポリシーの有効化/無効化など) が保存されます。

システムエラーが発生したときにポリシーフォルダの内容を回復できるように、定期的にバックアップを作成することを推奨します。

バックアップモード cmdlet について

Enterprise Vault には、次の対象に使うバックアップモードを設定、クリアできる一連の PowerShell の cmdlet が用意されています。

- ボルトストア
- ボルトストアグループ
- インデックスの場所

これらの cmdlet を直接 Enterprise Vault 管理シェルで実行したり、バックアップスクリプトで使ったりすることができます。たとえば、バックアップ前スクリプトで cmdlet を使って、バックアップを実行する前にインデックスの場所とボルトストアにバックアップモードを設定できます。バックアップの完了後は、バックアップ後スクリプトで cmdlet を使ってバックアップモードをクリアします。

各インデックスの場所とボルトストアについて、Enterprise Vault は、並行バックアップスクリプトの使用をサポートするために、設定要求とクリア要求の数のカウントを管理します。Enterprise Vault はバックアップモードを設定する各要求で 1 つずつカウントを増加し、バックアップモードをクリアする各要求で 1 つずつカウントを減らします。

並行バックアップスクリプトを使う場合、バックアップモードを設定したすべてのスクリプトがバックアップモードをクリアするまで、Enterprise Vault はボルトストアまたはインデックスの場所のバックアップモードをクリアしません。

メモ: インデックスの場所またはボルトストアのバックアップモードをクリアするために管理コンソールを使うと、Enterprise Vault はバックアップモードのカウントを無視し、強制的にバックアップモードをクリアします。

PowerShell の cmdlet を直接実行する方法 (まず Enterprise Vault 管理シェルを実行)

- ◆ Enterprise Vault 管理シェルを起動します。

PowerShell が開き、Enterprise Vault スナップインがロードされ、シェルでバックアップモードの cmdlet が利用できるようになります。

Enterprise Vault 管理シェルには、次のバックアップモードの cmdlet が用意されています。

Get-IndexLocationBackupMode	インデックスの場所の現在のバックアップモード設定のレポートを取得します。
Set-IndexLocationBackupMode	インデックスの場所のバックアップモードのカウントを増やします。
Clear-IndexLocationBackUpMode	インデックスの場所のバックアップモードのカウントを減らします。
Get-VaultStoreBackupMode	ボルトストアの現在のバックアップモード設定のレポートを取得します。
Set-VaultStoreBackupMode	ボルトストアのバックアップモードのカウントを増やします。
Clear-VaultStoreBackupMode	ボルトストアのバックアップモードのカウントを減らします。

すべての **cmdlet** についてヘルプが利用できます。たとえば、次のコマンドを実行すると `Clear-VaultStoreBackupMode` の詳細なヘルプが表示されます。

```
Get-Help Clear-VaultStoreBackupMode -detailed
```

環境の設定に基づいて、バックアップスクリプトで使用可能な状態の PowerShell バックアップモードコマンドを生成することもできます。

p.18 の「[環境に合わせた PowerShell バックアップコマンドの生成](#)」を参照してください。

インデックスの場所のバックアップモードに関する cmdlet の構文

インデックスの場所のバックアップモードに関する 3 つの **cmdlet** の構文はすべて同じです。次に例を示します。

```
Set-IndexLocationBackupMode [-EVServerName] <String> [[-IndexRootPath] <String>] [-EVSiteName <String>] [<CommonParameters>]
```

次の例に、`Set-IndexLocationBackupMode` を使ってインデックスの場所のバックアップモードのカウンを増やす方法を示します。

- `Set-IndexLocationBackupMode EVServer`
このコマンドを実行すると、サーバー **EVServer** に関連付けされたすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウンが増加します。
- `Set-IndexLocationBackupMode EVServer -IndexRootPath f:¥indexing¥index0`
このコマンドを実行すると、インデックスの場所 `f:¥indexing¥index0` のバックアップモードのカウンが増加します。
- `Set-IndexLocationBackupMode EVServer -EVSiteName Site1`
このコマンドを実行すると、**Site1** のすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウンが増加します。

いずれの場合も、インデックスの場所またはサイトを所有するサーバーの名前を指定して、**cmdlet** がその ID を検索できるようにする必要があります。

インデックスの場所、サイト、サーバーの ID がわかっている場合、次の構文を使ってバックアップモードのカウンを増やすことができます。

```
Set-IndexLocationBackupMode [-EntryId <String>] [<CommonParameters>]
```

次に例を示します。

```
Set-IndexLocationBackupMode -EntryId  
1f3c7910cd579234ab8eb207f0ecebce91210000EVServer.Domain1.local
```

このコマンドを実行すると、指定した ID を持つオブジェクトのバックアップモードのカウンが増加します。インデックスの場所の ID を指定すると、そのインデックスの場所のバック

アップモードのカウントが増加します。サーバーまたはサイトの ID を指定すると、それに関連付けられたすべてのインデックスの場所のバックアップモードのカウントが増加します。

Clear-IndexLocationBackupMode では、同じ構文を使って、インデックスの場所のバックアップモードのカウントを減らします。また、インデックスの場所のバックアップモードを強制的にクリアするのに使うことができる追加のパラメータがあります。次に例を示します。

```
Clear-IndexLocationBackupMode EV1 -ForceClearBackupMode 1
```

このコマンドは、サーバー **EV1** に関連付けられるすべてのインデックス場所のバックアップモードを強制的にクリアします。Clear-IndexLocationBackupMode は既存のバックアップモードのカウントを無視し、**0** に設定します。

Get-IndexLocationBackupMode でも、同じ構文を使って、現在のバックアップモード設定のレポートを取得します。

ボルトストアのバックアップモードに関する cmdlet の構文

ボルトストアのバックアップモードに関する 3 つの cmdlet の構文はすべて同じです。次に例を示します。

```
Clear-VaultStoreBackupMode [-Name] <String> [-EVServerName] <String> [-EvObjectType] <EVObjectType> [<CommonParameters>]
```

次の例に、Clear-VaultStoreBackupMode を使ってボルトストアとボルトストアグループのバックアップモードのカウントを減らす方法を示します。

- Clear-VaultStoreBackupMode VS1 EVServer VaultStore
このコマンドはボルトストア **VS1** のバックアップモードのカウントを減らします。
- Clear-VaultStoreBackupMode VSG1 EVServer VaultStoreGroup
このコマンドはボルトストアグループ **VSG1** のすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントを減らします。
- Clear-VaultStoreBackupMode Site1 EVServer Site
このコマンドは **Site1** のすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントを減らします。

いずれの場合も、ボルトストアまたはサイトを所有するサーバーの名前を指定し、オブジェクトの種類を指定する必要があります。これらのパラメータを使うと、cmdlet が正しい ID を検索できます。

パラメータ名を省略する場合、パラメータを上記の順序で指定する必要があります。ただし、パラメータ名を指定する場合、パラメータは任意の順序で使えます。次に例を示します。

```
Clear-VaultStoreBackupMode -EVServerName EVServer -EVOBJECTType  
VaultStore -Name VS1
```

ボルトストア、ボルトストアグループ、サイトの ID がわかっている場合、次の構文を使ってバックアップモードのカウントを減らすことができます。

```
Clear-VaultStoreBackupMode -EntryId <String> [<CommonParameters>]
```

次に例を示します。

```
Clear-VaultStoreBackupMode -EntryId  
1F3C7910CD579234AB8EB207F0ECEBCE91210000EVServer.Domain1.local
```

このコマンドを実行すると、指定した ID を持つオブジェクトのバックアップモードのカウントが減少します。ボルトストアの ID を指定すると、そのボルトストアのバックアップモードのカウントが減少します。ボルトストアグループまたはサイトの ID を指定すると、それに関連付けられたすべてのボルトストアのバックアップモードのカウントが減少します。

Clear-VaultStoreBackupMode では、同じ構文を使って、ボルトストアのバックアップモードのカウントを減らします。また、ボルトストアのバックアップモードを強制的にクリアするのに使うことができる追加のパラメータがあります。次に例を示します。

```
Clear-VaultStoreBackupMode EV1 -ForceClearBackupMode 1
```

このコマンドは、サーバー EV1 に関連付けられるすべてのボルトストアのバックアップモードを強制的にクリアします。Clear-VaultStoreBackupMode は既存のバックアップモードのカウントを無視し、0 に設定します。

Get-VaultStoreBackupMode でも、同じ構文を使って、現在のバックアップモード設定のレポートを取得します。

環境に合わせた PowerShell バックアップコマンドの生成

Enterprise Vault には、Transform-Backup.ps1 という PowerShell スクリプトが含まれます。このスクリプトを使って、環境に合わせた PowerShell バックアップモードコマンドを生成できます。

Transform-Backup.ps1 は、環境内の次の各エンティティ用のバックアップモード設定コマンドとバックアップモードクリアコマンドが含まれている HTML ファイルを生成します。

- Enterprise Vault サイト (すべてのボルトストア)
- ボルトストアグループ
- ボルトストア
- Enterprise Vault サイト (すべてのインデックスの場所)

この HTML ファイルからバックアップ設定に適したコマンドを使うことができます。

たとえば、1 回の操作で Enterprise Vault サイト全体に関連付けられたすべてのデータをバックアップする場合は、サイトのボルトストアにバックアップモードを設定するコマンドと、サイトのインデックスの場所にバックアップモードを設定するコマンドをバックアップ前スクリプトに含める必要があります。

バックアップ操作が完了したら、サイトのボルトストアからバックアップモードをクリアするコマンドと、サイトのインデックスの場所からバックアップモードをクリアするコマンドをバックアップ後スクリプトに含める必要があります。

Transform-Backup.ps1 は、Enterprise Vault インストール先フォルダの下の Templates フォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Reports\Templates) にあります。

スクリプトを実行する前に、PowerShell スクリプト実行ポリシーを設定して、署名済みスクリプトのみが実行されるようにする必要があります。これは 1 回行うだけで済みます。

PowerShell スクリプト実行ポリシーを設定する方法

- 1 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。
- 2 次のコマンドを実行します。

```
Set-ExecutionPolicy -executionPolicy AllSigned
```

PowerShell スクリプト実行ポリシーを設定したら、Transform-Backup.ps1 を実行して、環境に合わせたバックアップモードコマンドを生成できます。

スクリプトを実行する方法

- 1 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。
- 2 Enterprise Vault インストール先フォルダの下の Reports\Templates フォルダに移動します。
- 3 次のコマンドを入力して、スクリプトを実行します。

```
.\Transform-Backup.ps1
```

- 4 次のプロンプトが表示されます。

```
Do you want to run software from this untrusted publisher?
```

R を選択して、スクリプトを 1 回実行します。

スクリプトの終了時に、Transform-Backup.ps1 によって生成された HTML ファイルがデフォルトの Web ブラウザで自動的に開きます。

バックアップスクリプトでの PowerShell cmdlet の使用

Enterprise Vault のバックアップモード PowerShell cmdlet は、バックアップモードを制御するためにバックアップスクリプトで使います。たとえば、バックアップを実行する前にボ

ルトストアとインデックスの場所にバックアップモードを設定して、バックアップの完了後にバックアップモードを再度クリアできます。

このセクションでは、バックアップスクリプトでの Enterprise Vault のバックアップモード PowerShell cmdlet の使い方について説明します。

バックアップスクリプトでは、単一のコマンドを使って次の操作を実行できます。

- Windows PowerShell の新しいインスタンスを実行する
- Enterprise Vault PowerShell スナップインをロードする
- 適切な cmdlet を実行してバックアップモードを制御する

64 ビット版の Windows オペレーティングシステムでは、32 ビット版の PowerShell で Enterprise Vault PowerShell スナップインを実行する必要があります。32 ビット版の PowerShell は、%SystemRoot%\SysWow64\WindowsPowerShell\v1.0 にインストールされています。

たとえば、バックアップスクリプトの開始部分またはバックアップ前スクリプトで次のコマンドを使って、バックアップの実行前にバックアップモードを設定できます。このコマンドによって PowerShell が実行され、Enterprise Vault PowerShell スナップインがロードされて、set-vaultstorebackupmode cmdlet が実行されます。その結果、次のようにバックアップモードが Express Vault Store Group というボルトストアグループに設定されます。

```
%SystemRoot%\SysWow64\WindowsPowerShell\v1.0\powershell -psconsolefile  
"C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\EVShell.psc1" -command "&  
{set-vaultstorebackupmode -name 'Express Vault Store Group'  
-evservername EVserver -evobjecttype vaultstoregroup}"
```

バックアップが完了したら、スクリプトで同様のコマンドを実行してバックアップモードをクリアします。次に例を示します。

```
%SystemRoot%\SysWow64\WindowsPowerShell\v1.0\powershell -psconsolefile  
"C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\EVShell.psc1" -command "&  
{clear-vaultstorebackupmode -name 'Express Vault Store Group'  
-evservername EVserver -evobjecttype vaultstoregroup}"
```

Enterprise Vault 回復手順

この章では以下の項目について説明しています。

- 回復手順の一部としての EVSVR の使用について
- システム全体のバックアップを使った Enterprise Vault の回復
- データのみのバックアップを使った Enterprise Vault の回復
- Enterprise Vault コンポーネントの回復
- VCS クラスタでの Enterprise Vault の回復
- Windows Server フェールオーバークラスタでの Enterprise Vault の回復

回復手順の一部としての EVSVR の使用について

Enterprise Vault にはコマンドラインユーティリティ EVSVR が付属しています。EVSVR を使ってボルトストアパーティションとデータベース内の情報の一貫性を確認し、エラーがあれば修復できます。回復手順の一部として、問題を識別し、解決するために EVSVR を複数回実行することを強く推奨します。

- 回復手順を実行する前に、問題を識別するために EVSVR を実行します。
- 次の状況のどちらかが発生した場合は、問題を解決したことを検証するために EVSVR を再び実行します。
 - 回復手順を完了しました。
 - 回復手順で、環境を通常どおり動作させるように要求されています (たとえば、アイテムをアーカイブまたは再度アーカイブするため)。

通常の動作を再開する前に、環境に整合性があるようにするために EVSVR を使う必要がある場合もあります。

EVSVR の実行方法のガイドラインについては『ユーティリティ』を参照してください。

システム全体のバックアップを使った Enterprise Vault の回復

Enterprise Vault 環境全体 (システム、サービス、タスク) のアプリケーションバックアップを実行することを選択した場合、次の手順によって環境全体を回復できます。

システム全体のバックアップを使って Enterprise Vault を回復する方法

- 1 システム全体のバックアップを回復します。
- 2 コントロールパネルの[サービス]で不足しているサービスがある場合は、次の手順のいずれかにより Enterprise Vault 設定ウィザードを実行してサービス情報を再構築します
 - ディレクトリサーバーが実行されている Enterprise Vault サーバーをすべて回復する場合、最初のサーバーは「回復手順 6」で回復します。
p.28 の「[回復手順 6: 最初のディレクトリサービスコンピュータでのサービスとタスクの再作成](#)」を参照してください。
 - ディレクトリサービスが実行されている他のサーバーを含めたそれ以降のサーバーは、「回復手順 7」で回復します。
p.30 の「[回復手順 7: Enterprise Vault サーバーでのサービスとタスクの再作成](#)」を参照してください。

環境回復手順の実行

障害が発生した場合は、次の手順に従って Enterprise Vault 環境を回復します。

メモ: 異なる指示が記載されている場合を除き、この回復手順がすべて完了するまで Enterprise Vault サービスを起動しないでください。

Enterprise Vault 環境を回復する方法

- 1 ファイルシステムのバックアップを復元します。
- 2 次の Enterprise Vault データベースを復元します。
 - EnterpriseVaultDirectory
 - EnterpriseVaultMonitoring
 - EnterpriseVaultAudit
 - 設定した各 FSA Reporting データベース (FSA Reporting を使う場合)。
 - 各フィンガープリントデータベース
 - 各ボルトストアデータベース

- 3 ボルトストアパーティションをもとの場所に復元します。
- 4 インデックスボリュームをもとの場所に復元します。
- 5 前回のバックアップ完了後に実行されたアーカイブ操作を繰り返します。
- 6 メールボックスの保留中アイテムをすべて取り消します。
- 7 消失した SharePoint 対象を追加します。消失した対象それぞれに対して、以前に使われていたものと同じボルトストアを選択してください。

Web アプリケーションやサイトコレクションを対象として追加する方法の詳細については、『SharePoint Server アーカイブの設定』を参照してください。

データのみのバックアップを使った Enterprise Vault の回復

次の回復手順は、レジストリを含む Enterprise Vault データのみをバックアップし、Enterprise Vault サーバー上のシステムディスクをバックアップしていない場合に使います。

このセクションで説明する手順では、次の Enterprise Vault データベースのバックアップが必要です。

- EnterpriseVaultDirectory
- EnterpriseVaultMonitoring
- EnterpriseVaultAudit
- 設定した各 FSA Reporting データベース (FSA Reporting を使う場合)。
- フィンガープリントデータベース
- ボルトストアデータベース

また、次の Enterprise Vault データのバックアップも必要です。

- ボルトストアパーティション
- インデックスの場所

これらの手順は、回復する Enterprise Vault サーバーが 1 つのみの場合、あるいは複数の場合のどちらでも使えます。

各サーバーを回復するには、障害が発生する前にそのサーバーで実行されていた Enterprise Vault サービスを知っている必要があります。各サーバーでどの Enterprise Vault サービスが実行されていたかが不確かな場合、SQL スクリプト

ServiceLocations.sql を実行します。このスクリプトは Enterprise Vault インストールフォルダ、たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault にあります。

メモ: スクリプトを実行する前に、まず Enterprise Vault ディレクトリデータベースを復元する必要があります。

回復手順 1: サーバーへのソフトウェアのインストール

以前インストールした Enterprise Vault に関連するすべてのデータを、新しいサーバー上に回復する必要があります。障害が発生したサーバーごとに、新しいコンピュータを設定する必要があります。理想的には、置き換えようとしているもとのコンピュータと同じ名前で各コンピュータを設定します。

メモ: 同じ名前を使うことが不可能な場合は、回復手順で、どのようにしてコンピュータ名の変更に対応させるかを説明しています。

Windows のインストールから開始し、次に Enterprise Vault の前提条件を準備して、各システムを構築します。各コンピュータにインストールする必要がある前提条件ソフトウェアがはっきりわからない場合は、Enterprise Vault のマニュアルを参照してください。

正しい前提条件ソフトウェアを各サーバーに設定したら、サーバーに Enterprise Vault をインストールします。

次の点に注意してください。

- 新しいサーバーでは、それぞれもとのサーバーと同じフォルダに Enterprise Vault をインストールします。
- 現在の環境で使われているものと同じバージョンの Enterprise Vault をインストールします。

Enterprise Vault ソフトウェアのインストール完了時に Enterprise Vault ウィザードを実行しないでください。

回復手順 2: Enterprise Vault システムデータベースの復元

次の Enterprise Vault データベースを復元します。

- EnterpriseVaultDirectory
- EnterpriseVaultMonitoring
- EnterpriseVaultAudit
- 設定した各 FSA Reporting データベース (FSA Reporting を使う場合)。
- フィンガープリントデータベース
- ボルトストアデータベース

EnterpriseVaultMonitoring または FSA レポートデータベースをホストされていたものとは別の SQL Server に復元した場合は、ディレクトリデータベースを更新する必要があります。

ディレクトリデータベースの監視設定を更新する方法

- ◆ ディレクトリデータベースをホストしている SQL Server で、次の SQL スクリプトを実行します。

```
USE EnterpriseVaultDirectory
UPDATE MonitoringSettings
SET SQLServer = 'SQL_server_name'
```

SQL_server_name は、新しい SQL サーバーの名前です。

ディレクトリデータベースの FSA レポート設定を更新する方法

- 1 ディレクトリデータベースをホストしている SQL Server で次の SQL スクリプトを実行し、各 FSA レポートデータベースをホストしていた SQL サーバーを判断します。

```
USE EnterpriseVaultDirectory
Select SQLServer, DatabaseName From FSAREportingDatabase
```

- 2 次の SQL スクリプトを実行します。

```
USE EnterpriseVaultDirectory
UPDATE FSAREportingDatabase
SET SQLServer = 'SQL_server_name'
WHERE DatabaseName = 'FSA_reporting_database_name'
```

それぞれの内容は次のとおりです。

- **SQL_server_name** は、新しい SQL サーバーの名前です。
- **FSA_reporting_database_name** は、復元した FSA レポートデータベースの名前です。

回復手順 3: サーバーの名前を変更すること

理想的には、各サーバーは、置き換えようとしているもとのサーバーと同じ名前で設定する必要があります。しかし、そうでない場合は、ここで説明する追加の手順を実行する必要があります。

警告: Enterprise Vault をクラスタ環境で実行している場合は、シマンテック社のサポートからの指示がない限り、この操作を実行しないでください。

古いサーバーと異なる名前のサーバーを設定する方法

1 回復しようとしているサーバーごとに次の手順を繰り返します。

- SQL Query Analyzer を実行し、Enterprise Vault Directory Service を実行しているサーバーに接続します。
- 次の SQL コマンドを入力して実行します。

```
USE EnterpriseVaultDirectory
UPDATE ComputerEntry
SET ComputerNameAlternate = 'Name of new server'
WHERE ComputerNameAlternate = 'Name of old server'
```

2 古いサーバーに設定した DNS エイリアスが新しいサーバーの名前をポイントしていることをチェックします。DNS エイリアスが不明な場合は、EnterpriseVaultDirectory データベースに対して、次の SQL クエリーを実行します。

```
USE EnterpriseVaultDirectory
SELECT ComputerName FROM ComputerEntry
```

3 ボルトサイトエイリアスを提供していたシステム (通常、サイトに追加された最初のサーバー) を回復しようとする場合、この新しいサーバーをポイントするように、ボルトサイトエイリアスを更新する必要があります。これを行うには、次の手順を記載順に実行します。

- SQL Query Analyzer を実行し、Enterprise Vault Directory Service を実行しているサーバーに接続します。
- 次の SQL コマンドを入力して実行します。

```
USE EnterpriseVaultDirectory
SELECT SiteEntryId
FROM SiteEntry
```

返される値には、数字の長い文字列の最後にボルトサイトエイリアスが含まれています。たとえば、コマンドによって次の文字列が返された場合、ボルトサイトエイリアスは sitealias です。

```
10354B15D38FE5B41BAAC212490EBA5351d10000sitealias
```

- DNS については、新しいサーバーをポイントするようにこの DNS エイリアスエントリを変更します。

回復手順 4: Enterprise Vault データファイルのコピーまたは移動

ここで、Enterprise Vault データファイルのバックアップを Enterprise Vault サーバー上の場所に復元する必要があります。

回復しようとしているサーバー上に存在していた Enterprise Vault のもとのコンポーネントによっては、次のデータファイルのみを復元する必要があります。

- ストレージサービスを以前実行していたサーバーまたはクラスタに設定されているサーバーを復元しようとしている場合は、もとのストレージサービスによって管理されていたすべてのボルトストアの保存セットファイルを、このサーバーに復元する必要があります。
- インデックスサービスを以前実行していたサーバーまたはクラスタに設定されているサーバーを復元しようとしている場合は、もとのインデックスサービスによって管理されていたインデックスデータファイルを、このサーバーに復元する必要があります。
- ショッピングサービスを以前実行していたサーバーまたはクラスタに設定されているサーバーを復元しようとしている場合は、もとのショッピングサービスによって管理されていたショッピングファイルを、このサーバーに復元する必要があります。

Enterprise Vault データは、もとのサーバー上で存在していた場所に復元する必要があります。たとえば、インデックスサービスを実行するサーバーを回復しようとしており、インデックスデータは当初、次の場所に格納されていたとします。

I:¥Indexing

このインデックスデータは、新しいサーバーで、同じ場所に復元する必要があります。

ディスク上の SQL データベースデバイスをすべて再編成して移動するには、Microsoft ナレッジベースの次の記事に記載されている手順を実行できます。

<http://support.microsoft.com/?kbid=181602>

Enterprise Vault サービスを起動する前に、データファイルを正しい場所に配置しておく必要があります。正しくない場合、クリーンアップ操作が発生し、データの損失が生じる可能性があります。

回復手順 5: ディレクトリデータベースエントリの消去

環境内のすべての Enterprise Vault サーバーまたは選択したサーバーに対するディレクトリデータベースエントリを消去できます。

このセクションで説明する SQL クエリーは、すべての Enterprise Vault サーバーのデータベースのエントリを消去します。環境内に複数の Enterprise Vault サーバーがある場合は、一部のサーバーのみを回復する場合があります。次のテクニカルノートには、ディレクトリエントリを消去するサーバーを指定できる、別の SQL スクリプトが記載されています。

<https://www.veritas.com/docs/100001173>

すべての **Enterprise Vault** サーバーのディレクトリデータベースエントリを消去する方法

- 1 **SQL Query Analyzer** を実行し、**Enterprise Vault Directory Service** を実行しているサーバーに接続します。
- 2 次の **SQL コマンド**を入力して実行します。

```
USE EnterpriseVaultDirectory
UPDATE StorageServiceEntry
SET StorageArchive = '', StorageRestore = '',
StorageReplayIndex = '', StorageSpool = ''
UPDATE RetrievalTask
SET RetrievalSpoolQueue = ''
UPDATE ArchivingRetrievalTask
SET MessageQueue = ''
UPDATE RetrievalTask
SET MessageQueue = ''
UPDATE JournalTask
SET MessageQueue = ''
UPDATE PublicFolderTask
SET MessageQueue = ''
```

回復手順 6: 最初のディレクトリサービスコンピュータでのサービスとタスクの再作成

ディレクトリサービスを実行する **Enterprise Vault** サーバーをすべて回復する場合、最初のサーバーはこの手順で回復する必要があります。ディレクトリサービスを実行する他のサーバーを含めたそれ以降のサーバーは、「回復手順 7」に説明されている手順で回復してください。

p.30 の「[回復手順 7: Enterprise Vault サーバーでのサービスとタスクの再作成](#)」を参照してください。

Enterprise Vault 設定ウィザードは、サーバー名が元のインストールで使われた名前と同じである場合や、「回復手順 3」の手順に正しく従った場合には、不足しているサービスとタスクを検出できます。

p.25 の「[回復手順 3: サーバーの名前を変更すること](#)」を参照してください。

最初のディレクトリサービスコンピュータでサービスとタスクを再作成する方法

- 1 **Enterprise Vault** 設定ウィザードを開始します。
- 2 [はい]を選択して新しいディレクトリサービスを作成し、[次へ]をクリックします。
- 3 ボルトサービスアカウントの詳細を入力し、[次へ]をクリックします。

Enterprise Vault 設定ウィザードにより以下が実行されます。

- Enterprise Vault Admin Service がボルトサービスアカウントで実行されるようにログインを変換します。
 - ボルトサービスアカウントをコンピュータのローカルの **Administrators** グループに追加します。
 - ボルトサービスアカウントにユーザー権利[サービスとしてログオン]と[プログラムのデバッグ]を付与します。
 - Enterprise Vault Directory Service を作成して起動します。
- 4 ディレクトリデータベースをホストする **SQL Server** の名前の入力を求めるメッセージが表示されたら、Enterprise Vault の元の設定でディレクトリデータベースのホストに使われていた **SQL Server** の名前を入力し、[次へ]をクリックします。
 - 5 Enterprise Vault 設定ウィザードによって、その **SQL Server** が存在し、接続できるかどうかチェックされます。ディレクトリデータベースを回復してあれば、これで、Enterprise Vault 設定ウィザードによって、ディレクトリサービスコンピュータにインストールされていたサービスとタスクが再作成されます。
 - 6 ディレクトリサービスコンピュータで Enterprise Vault サービスを再作成するには、ボルトサービスアカウントのパスワードを入力します。
 - 7 修復が完了すると、成功のメッセージが表示されます。
 - 8 Enterprise Vault 設定ウィザードにこのメッセージが表示されない場合は、ウィザードの実行を続けしないでください。ウィザードを閉じて、次の手順を実行します。
 - 以前の手順がすべて成功したかどうかをチェックして、目的を達していない手順があれば繰り返し、その後、Enterprise Vault 設定ウィザードを再実行します。
 - 次のレジストリキーの下に、UseLanManNameForSCM という名前のレジストリ値を作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  \SOFTWARE
    \Wow6432Node
      \KVS
        \Enterprise Vault
          \Admin
```

- UseLanManNameForSCM に 1 の値を指定します。
- Enterprise Vault 設定ウィザードを再実行します。
- それでも問題が解決しない場合は、Enterprise Vault のサポートにお問い合わせください。

回復手順 7: Enterprise Vault サーバーでのサービスとタスクの再作成

ディレクトリサービスを実行する Enterprise Vault サーバーをすべて回復する場合、最初のサーバーは「回復手順 6」で回復する必要があります。

p.28 の「[回復手順 6: 最初のディレクトリサービスコンピュータでのサービスとタスクの再作成](#)」を参照してください。

ディレクトリサービスを実行する他のサーバーを含めたそれ以降のサーバーは、このセクションで説明する手順で回復してください。

Enterprise Vault 設定ウィザードは、サーバー名が元のインストールで使われた名前と同じである場合や、「回復手順 3」の手順に正しく従った場合には、不足しているサービスとタスクを検出できます。

p.25 の「[回復手順 3: サーバーの名前を変更すること](#)」を参照してください。

他の Enterprise Vault サーバーでサービスを再作成する方法

- 1 ネットワークでディレクトリサービスを実行しているサーバーが利用可能であり、ディレクトリサービスが起動されていることを確認します。
- 2 ローカルコンピュータで管理サービスが開始されていることを確認します。
- 3 サーバーで Enterprise Vault 設定ウィザードを実行します。
- 4 ディレクトリを作成するか、既存のディレクトリを使うかを尋ねられたら、[いいえ、既存のリモートボルトディレクトリを使います]を選択し、ディレクトリサービスを実行しているサーバーの名前を入力します。
- 5 ボルトサービスアカウントのパスワードを入力します。これはコンピュータで Enterprise Vault サービスを再作成するために必要です。
- 6 Enterprise Vault 設定ウィザードによって、サーバーで以前実行されていた Enterprise Vault のサービスとタスクが再作成され、成功を示すメッセージが表示されます。
- 7 Enterprise Vault 設定ウィザードに成功メッセージが表示されない場合は、ウィザードの実行を続けしないでください。ウィザードを閉じて、次の手順を実行します。
 - 以前の手順がすべて成功したかどうかをチェックして、目的を達していない手順があれば繰り返し、その後、Enterprise Vault 設定ウィザードを再実行します。
 - 次のレジストリキーの下に、UseLanManNameForSCM という名前のレジストリ値を作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SOFTWARE
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
          ¥Admin
```

- UseLanManNameForSCM に 1 の値を指定します。
- Enterprise Vault 設定ウィザードを再実行します
- すべての手順に正しく従ったことが確かで、レジストリキーを設定しても問題が解決しない場合、Enterprise Vault のサポート担当者にお問い合わせください。

8 すべての Enterprise Vault サービスを起動します。

新しいサーバー上に、メッセージキューが自動的に再作成されます。ストレージサービスが複数のプロセスを起動するように設定されている場合、メッセージキューの作成中にこのサービスが停止することがあります。これは、キューを作成するプロセス間の競合のためです。問題を修正するには、ストレージサービスを再起動します。

インデックスサービスによってインデックスメタデータ内の不整合が検出された場合は、メタデータが自動的に同期されます。以下のイベントが表示される可能性があります。

```
Event 41395 Index Volume metadata upgrade required
Event 41372 Index Volume metadata synchronization started
```

同期中には、インデックスサービスによって、プロセスイベントが 10 分ごとにログに記録されます。同期の終了時には、次のいずれかのイベントがログに記録されます。

```
Event 41373 Index Volume metadata synchronization completed
Event 41377 Index Volume metadata synchronization completed
```

インデックスの同期には時間がかかることがあります。たとえば、Enterprise Vault で推奨している仕様のサーバーでは、5,000 個のインデックスボリュームを処理するのに約 10 分かかります。

その他のインデックスハウスキーピングが必要な場合は、数分ごとに他の進行状況のメッセージが表示されます。

回復手順 8 : Web Access アプリケーション設定のチェック

ここで、Web Access アプリケーションのポートとプロトコル設定が正しいことを確認する必要があります。

Web Access アプリケーション設定をチェックする方法

- 1 管理コンソールを開きます。
- 2 [Enterprise Vault] コンテナと[ディレクトリ] コンテナを展開します。
- 3 [サイト] エントリを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- 4 [全般] ページを表示します。Web Access アプリケーションの仮想ディレクトリ /EnterpriseVault にアクセスするために設定されているポートとプロトコルが、IIS のデフォルトの Web サイトの設定と一致することをチェックします。

回復手順 9: レジストリエントリのチェック

新たに回復されたサーバーで、Enterprise Vault のレジストリエントリがすべて正しく設定されていることをチェックします。

主なレジストリエントリは次のキーの下にあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
```

さらに、ボルトサイトアカウントとしてログインしたときに、HKEY_CURRENT_USER の下にレジストリエントリを設定した可能性があります。その場合は、各サーバーで、次のキーの下にあるこれらのエントリも復元します。

```
HKEY_CURRENT_USER
¥Software
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
```

Enterprise Vault コンポーネントの回復

表 3-1 では、個々の Enterprise Vault コンポーネントを復元する方法について説明します。

注意: この操作は、ベリタスのサポートから指示された場合にのみ実行してください。

表 3-1 Enterprise Vault コンポーネントを復元する方法

復元するコンポーネント	操作
ディレクトリデータベース	<div><div>1</div>すべてのコンピュータで Enterprise Vault Admin Service が停止されていることを確認します。これを行うには、各コンピュータで Windows Manager を使って Enterprise Vault Admin Service を停止します。</div> <div><div>2</div>データベースを復元します。</div> <div><div>3</div>ディレクトリサービスを開始します。</div>

復元するコンポーネント	操作
インデックスの場所	<ol style="list-style-type: none"> 1 インデックスサービスを実行するコンピュータのシステムのバックアップを復元します。 2 サービスが停止されていることを確認します。 3 インデックスサービスのすべてのファイルを元の場所に復元します。バックアップしたファイルがすべて復元されたことと、他のファイルがインデックスサービスのフォルダに残っていないことを確認します。インデックスに整合性がなくなり使えなくなる場合もあるため、個々のファイルを復元しようとししないでください。 4 そのコンピュータで実行される他のすべての Enterprise Vault サービスのバックアップを復元します。 <p>正しく復元されると、インデックスサービスは復元されたインデックスを使えます。ただし、最後のバックアップ以後に実行されたアーカイブ操作から失われたインデックスエントリが存在する可能性があります。影響のあるインデックスは、ストレージサービスによって自動的に再構築されます。</p> <p>インデックスサービスによってインデックスメタデータ内の不整合が検出された場合は、メタデータが自動的に同期されます。以下のイベントが表示される可能性があります。</p> <pre>Event 41395 Index Volume metadata upgrade required Event 41372 Index Volume metadata synchronization started</pre> <p>同期中には、インデックスサービスによって、プロセスイベントが 10 分ごとにログに記録されます。同期の終了時には、次のいずれかのイベントがログに記録されます。</p> <pre>Event 41373 Index Volume metadata synchronization completed Event 41377 Index Volume metadata synchronization completed</pre> <p>インデックスの同期には時間がかかることがあります。たとえば、Enterprise Vault で推奨している仕様のサーバーでは、5,000 個のインデックスボリュームを処理するのに約 10 分かかります。</p> <p>その他のインデックスハウスキューピングが必要な場合は、数分ごとに他の進行状況のメッセージが表示されます。</p>
ショッピングサービスファイル	<ol style="list-style-type: none"> 1 ショッピングサービスを実行するコンピュータのシステムのバックアップを復元します。 2 ショッピングサービスが停止されていることを確認します。 3 ショッピングデータのバックアップを元の場所に復元します。 4 そのコンピュータで実行される他のすべての Enterprise Vault サービスのバックアップを復元します。 5 ショッピングサービスを起動します。既存のショッピングバスケットが利用可能になり、新しいショッピングバスケットを作成できます。

復元するコンポーネント	操作
ボルトストアファイル	<ol style="list-style-type: none">1 ストレージサービスを実行する各システムを復元します。2 ボルトストアファイルを元の場所に復元します。3 ボルトストアの データベースを復元します。4 復元したストレージサービスコンピュータで実行される他のすべての Enterprise Vault サービスのバックアップを復元します。5 EVSVR ユーティリティを実行してボルトストアパーティションとデータベース内の情報の一貫性を確認し、エラーがあれば修復します。 <p>詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。</p>
ボルトストアデータベースまたはフィンガープリントデータベース	<ol style="list-style-type: none">1 ストレージサービスを実行しているコンピュータを復元し、ボルトストアファイルを置き換えます。2 次のデータベースを復元します。<ul style="list-style-type: none">■ ボルトストアデータベースまたはフィンガープリントデータベース■ ディレクトリデータベース■ マスターデータベースと msdb データベース3 復元したストレージサービスコンピュータで実行される他のすべての Enterprise Vault サービスのバックアップを復元します。4 EVSVR ユーティリティを実行してボルトストアパーティションとデータベース内の情報の一貫性を確認し、エラーがあれば修復します。 <p>詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。</p>

VCS クラスタでの Enterprise Vault の回復

このセクションでは、1 つまたはすべてのノードの再構築が必要な Enterprise Vault VCS クラスタを修復する方法の概要について説明します。以下の手順の実行方法について詳しくは『インストール/設定』と『Veritas Storage Foundation and High Availability Solutions ガイド』を参照してください。

『インストール/設定』では、Veritas Storage Foundation HA を VVR (Veritas Volume Replicator) や GCO (Global Cluster Option) とともに使ったディザスタリカバリソリューションの実装方法についても説明しています。

p.21 の「[回復手順の一部としての EVSVR の使用について](#)」を参照してください。

リカバリシナリオ 1: いずれかのクラスタノードの再構築が必要な場合

クラスタ内のいずれかの Enterprise Vault ノードに再構築が必要な場合、フェールオーバーノードが自動的にその役割を引き継ぐ必要があります。操作できないノードを再構築

し、新しいフェールオーバーノードとして再度利用可能にするには、次の手順を実行してください。

クラスタ内の 1 つのノードを修復する方法

- 1 Windows とその他のすべての必要なソフトウェアをインストールします。
- 2 必要に応じて、VCS をインストールし、クラスタの一部としてノードを設定してください。
- 3 必要に応じて、Enterprise Vault をインストールしてください。
- 4 Enterprise Vault Cluster Setup Wizard を起動します。ノードがサービスグループのメンバーになるように、既存のサービスグループを修正する必要があります。
- 5 フェールオーバーノードで Enterprise Vault 設定ウィザードを実行します。既存のクラスタサーバーのフェールオーバーノードとしてノードを追加することを選択する必要があります。

リカバリシナリオ 2: すべてのクラスタノードの再構築が必要な場合

すべてのクラスタノードの再構築が必要であり、SQL Server データベースと Enterprise Vault 用のインデックスデータと保存セットデータのバックアップコピーがある場合、次の手順に従って状況を是正できます。

クラスタ内のすべてのノードを修復する方法

- 1 すべてのコンピュータを再構築し、データベースを復元します。
p.24 の「回復手順 2: Enterprise Vault システムデータベースの復元」を参照してください。
- 2 以前と同じディスク数で VCS にクラスタを再作成し、以前と同じドライブ文字で共有ディスクをマウントします。
- 3 以前と同じドライブ文字を使って、インデックスと Enterprise Vault ストアデータをディスクに復元します。
p.27 の「回復手順 4: Enterprise Vault データファイルのコピーまたは移動」を参照してください。
- 4 クラスタ内のすべてのノードに Enterprise Vault をインストールします。
- 5 クラスタの各 Enterprise Vault サーバーで、次の手順を記載順に実行します。
 - Enterprise Vault クラスタセットアップウィザードを実行して、サービスグループを再作成します。以前と同じ仮想サーバー名を使います。
 - プライマリノードで Enterprise Vault 設定ウィザードを実行します。クラスタグループで新しい Enterprise Vault サーバーを設定することを選択します。
ウィザードにより、既存の仮想サーバー名が検出され、修復が行われます。

修復が完了すると、ウィザードページが表示され、サービスリソースを作成できます。オプションでリソースをオンラインにするように設定されている場合は、手動では行わないでください。

- フェールオーバー ノードで Enterprise Vault 設定ウィザードを実行します。既存のクラスタサーバーのフェールオーバーノードとしてノードを追加することを選択します。
- 6 ディレクトリデータベースエントリを消去します。
p.27 の「[回復手順 5: ディレクトリデータベースエントリの消去](#)」を参照してください。
- 7 Web Access アプリケーションの URL をチェックします。
p.31 の「[回復手順 8 : Web Access アプリケーション設定のチェック](#)」を参照してください。
- 8 クラスタリソースをオンラインにして、フェールオーバーが計画どおりに機能することをテストします。

Windows Server フェールオーバークラスタでの Enterprise Vault の回復

このセクションでは、1 つまたはすべてのノードの再構築が必要な場合の Windows Server フェールオーバークラスタ内の Enterprise Vault を修復する方法の概要について説明します。各手順の実行方法について詳しくは『インストール/設定』を参照してください。

リカバリシナリオ 1: いずれかのクラスタノードの再構築が必要な場合

クラスタ内のいずれかの Enterprise Vault ノードに障害が発生した場合、フェールオーバーノードが自動的にその役割を引き継ぐ必要があります。次の手順では、多対多構成を前提として、操作できないノードを再構築し、新しいフェールオーバーノードとして利用可能にする方法について説明します。

クラスタ内の 1 つのノードを修復する方法

- 1 Windows とその他のすべての必要なソフトウェアをインストールします。
- 2 Enterprise Vault をインストールします。
- 3 フェールオーバークラスタマネージャーを使って、クラスタにノードを追加します。古いノードを次の所有者として新しいノードで置き換えます。
 - フェールオーバーリソースグループの各リソースの所有者候補
 - フェールオーバーリソースグループの優先所有者
- 4 新しいノードで Enterprise Vault 設定ウィザードを実行し、既存のクラスタサーバーのフェールオーバーノードとしてノードを追加するオプションを選択します。

リカバリシナリオ 2: すべてのクラスタノードの再構築が必要な場合

すべてのクラスタノードの再構築が必要であり、SQL Server データベースと Enterprise Vault 用のインデックスデータと保存セットデータのバックアップコピーがある場合、次の手順に従って状況を是正できます。

クラスタ内のすべてのノードを修復する方法

- 1 すべてのコンピュータを再構築し、データベースを復元します。

p.24 の「[回復手順 2: Enterprise Vault システムデータベースの復元](#)」を参照してください。
- 2 フェールオーバークラスタマネージャーを使って、クラスタを再作成します。以前と同じディスク数を使い、以前と同じドライブ文字で共有ディスクをマウントします。
- 3 以前と同じドライブ文字を使って、インデックスと Enterprise Vault ストアデータをディスクに復元します。

p.27 の「[回復手順 4: Enterprise Vault データファイルのコピーまたは移動](#)」を参照してください。
- 4 もとの仮想サーバー名を使って、前提条件リソースを含むリソースグループを再作成します。
- 5 クラスタ内のすべてのノードに Enterprise Vault をインストールします。
- 6 各プライマリノードで Enterprise Vault 設定ウィザードを実行します。クラスタをサポートする新しい Enterprise Vault サーバーを設定することを選択します。ウィザードにより、Enterprise Vault ディレクトリデータベースの ComputerEntry テーブルで、既存の仮想サーバー名が検出され、修復が実行されます。

修復が完了すると、ウィザードページが表示され、Enterprise Vault サービスリソースとサーバーインスタンスリソースを再作成できます。オプションでリソースをオンラインにするように設定されている場合は、手動では行わないでください。
- 7 各フェールオーバーノードで Enterprise Vault 設定ウィザードを実行します。既存のクラスタサーバーのフェールオーバーノードとしてノードを追加することを選択します。
- 8 ディレクトリデータベースエントリを消去します。

p.27 の「[回復手順 5: ディレクトリデータベースエントリの消去](#)」を参照してください。
- 9 Web Access アプリケーションの URL をチェックします。

p.31 の「[回復手順 8 : Web Access アプリケーション設定のチェック](#)」を参照してください。
- 10 クラスタリソースをオンラインにして、フェールオーバーが計画どおりに機能することをテストします。